

危機管理連絡会議

日時：平成30年10月2日（火）16：00～

場所：県庁4階405会議室

協議事項

1. 県内における風しん患者の発生について
2. その他

資 料 提 供			
提供日時	担当課名	内線番号	担当者
10月2日(火)	健康増進課感染症・疾病対策室	2227	柴原・金沢

県内における風しん患者の発生について

平成30年10月1日(月)に県内の医療機関から、今年に入り2例目の風しんの患者が発生した旨の届出がありました。

本公表は、広く県民の皆様に対し感染防止の注意喚起を行うため、情報提供を行うものです。

風しんウイルスは、「飛沫感染、接触感染」で感染し、感染すると通常14日～21日後に「発熱、発疹、リンパ節腫脹」が出現し、妊娠20週頃までの妊婦が感染すると、胎児に「先天性風しん症候群」が生じることがあります。

県民の皆様におかれましては、風しんを疑うような症状が現れた場合には、必ず、事前に医療機関に連絡し、受診するようにお願いします。

なお、風しんに関する詳細な情報については、徳島県のホームページに掲載しておりますので、参考にしてください。(http://www.pref.tokushima.jp/)

○発生の概要

- ・県内在住の30歳代の男性
- ・9月上旬に大阪府に滞在
- ・9月17日から発熱の症状有
- ・9月19日から発疹の症状有
- ・9月20日と9月28日に医療機関を受診
- ・10月1日、検査結果が判明し、同日、「風しん」の感染が確定
- ・現在、患者は症状軽快している。

※患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から特定されることがないように、格段の御配慮をお願いします。

風しんに注意しましょう！



風しんとはどんな病気ですか？

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。

風しんウイルスの感染経路は、せきやくしゃみなどによる飛沫感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。感染力は、麻疹や水ぼうそうほど強くはありません。

風しんウイルスの潜伏期間は、2～3週間です。

主な症状として発疹、発熱、リンパ腫の腫れが認められます。ウイルスに感染しても症状が出ない人が15～30%程度います。

妊婦（特に妊娠初期）が風しんにかかると、難聴・白内障・先天性心疾患を特徴とする「先天性風しん症候群」を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。

風しんを予防するには？

風しんの予防のためには、予防接種が最も有効な予防方法といえます。

特に妊婦を守る観点から、次に該当する方は、任意で風しんの予防接種を受けることを御検討ください。

- ①特に30代から50代の男性
- ②妊婦の夫、子ども及びその他の同居家族
- ③10代後半から40代の女性（特に妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い者）

※1 明らかに風しんにかかったことがある、風しんの予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認ができていない者を除く。

※2 2回の予防接種ワクチンの接種歴については、母子手帳等で確認してください。



風しんが疑われる場合の対応は？

風しんが疑われる症状が出現した場合は、他人に感染させないように、医療機関を受診する前に電話連絡を行い、受診の時間等を確認の上、医療機関の指示に従ってください。

海外への旅行を予定されている皆様へ

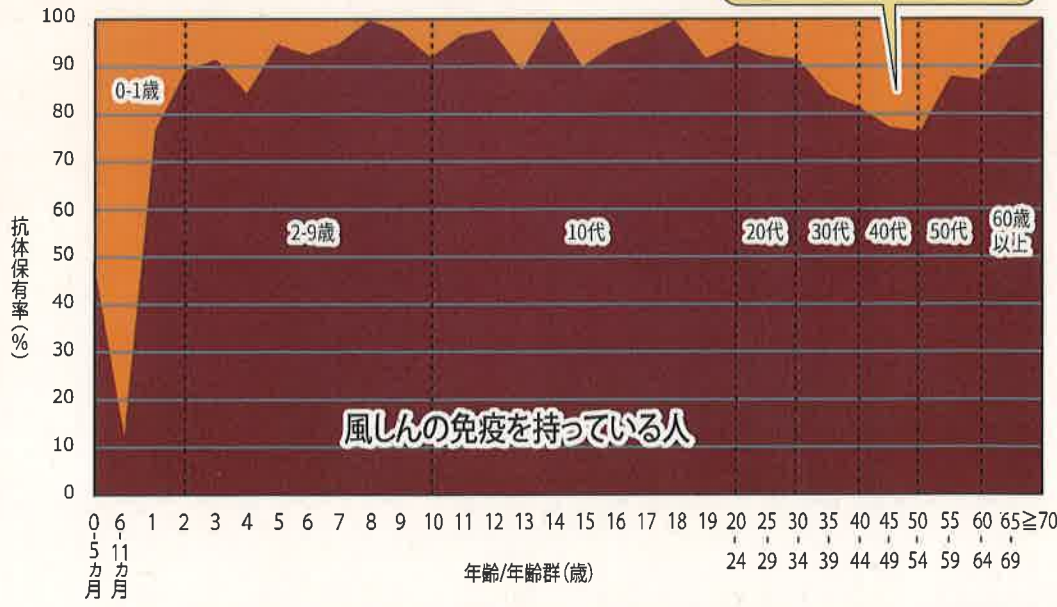
- ・旅行に行く前に・・・風しんの予防接種を母子手帳などで確認し、2回接種していない方は予防接種を検討してください。
- ・旅行から帰ったら・・・旅行後2週間程度は健康状態に注意しましょう。

妊婦さんと赤ちゃんを守るために成人男性も風しんの予防接種を受けましょう



風しんの免疫を持っていない成人男性がたくさん残っています

男性の風しん抗体保有状況(HI法で8以上)

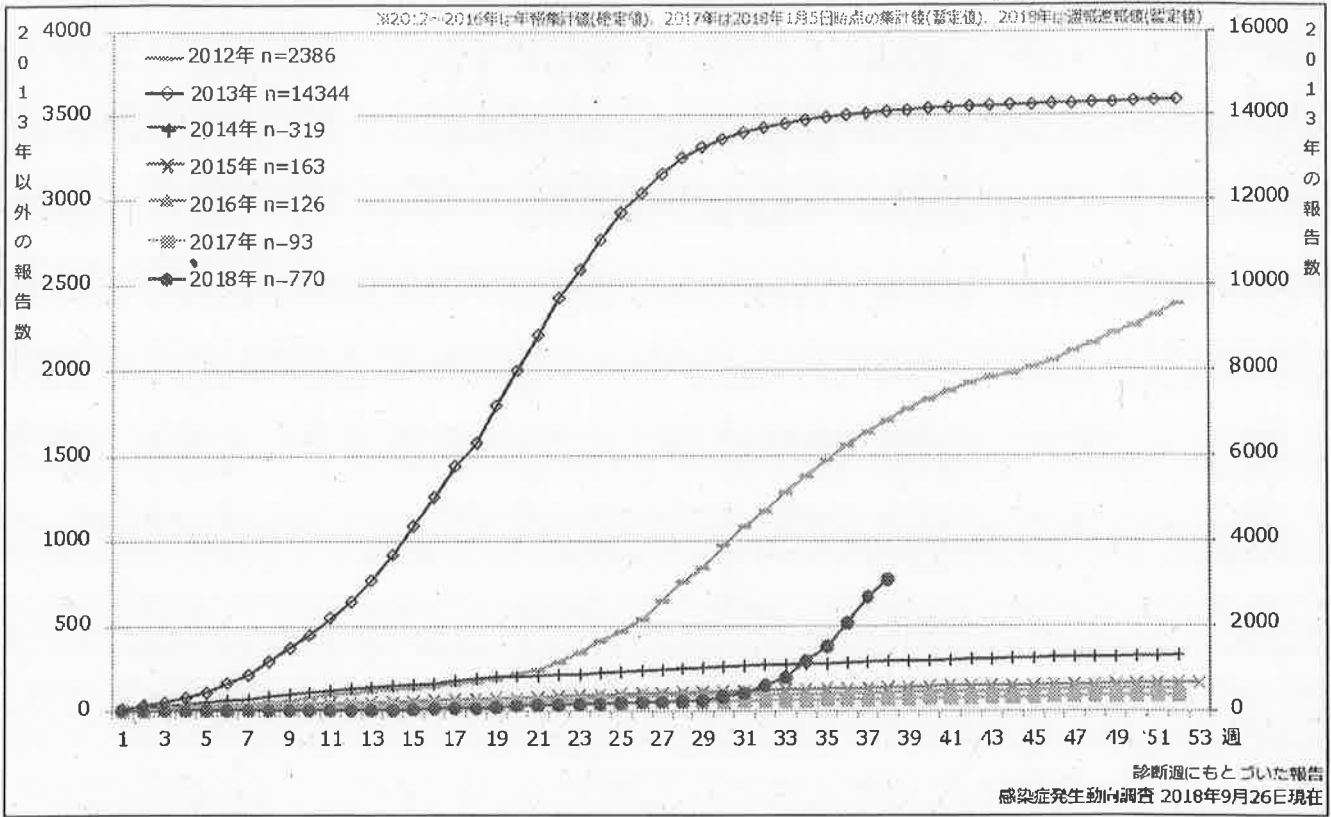


[抗体価測定: 赤血球凝集抑制法/ n=2,886](HI法)

流行予測2017

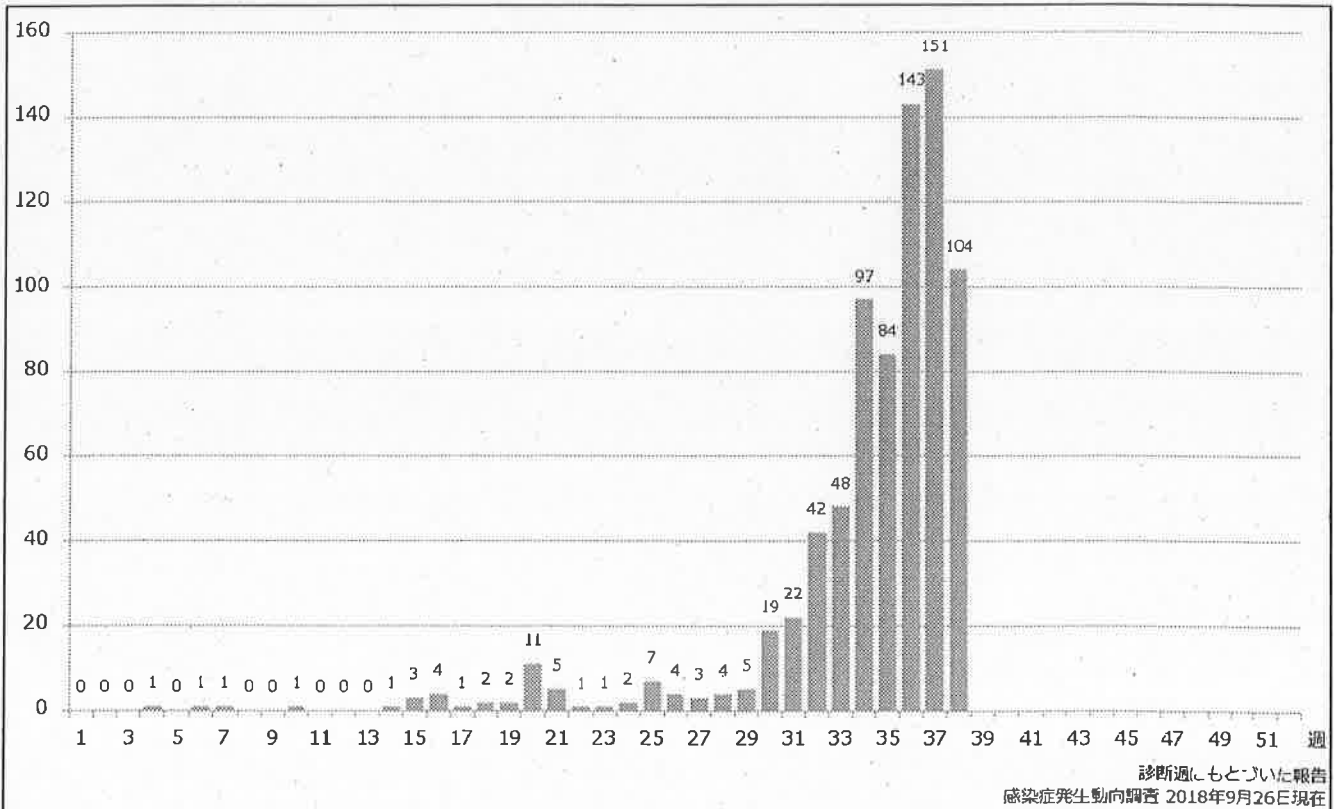
1. 風しん累積報告数の推移 2012~2018年 (第1~38週)

Cumulative rubella cases by week, 2012-2018 (week 1-38) (based on diagnosed week as of September 26, 2018)



2. 週別風しん報告数 2018年 第1~38週 (n=770)

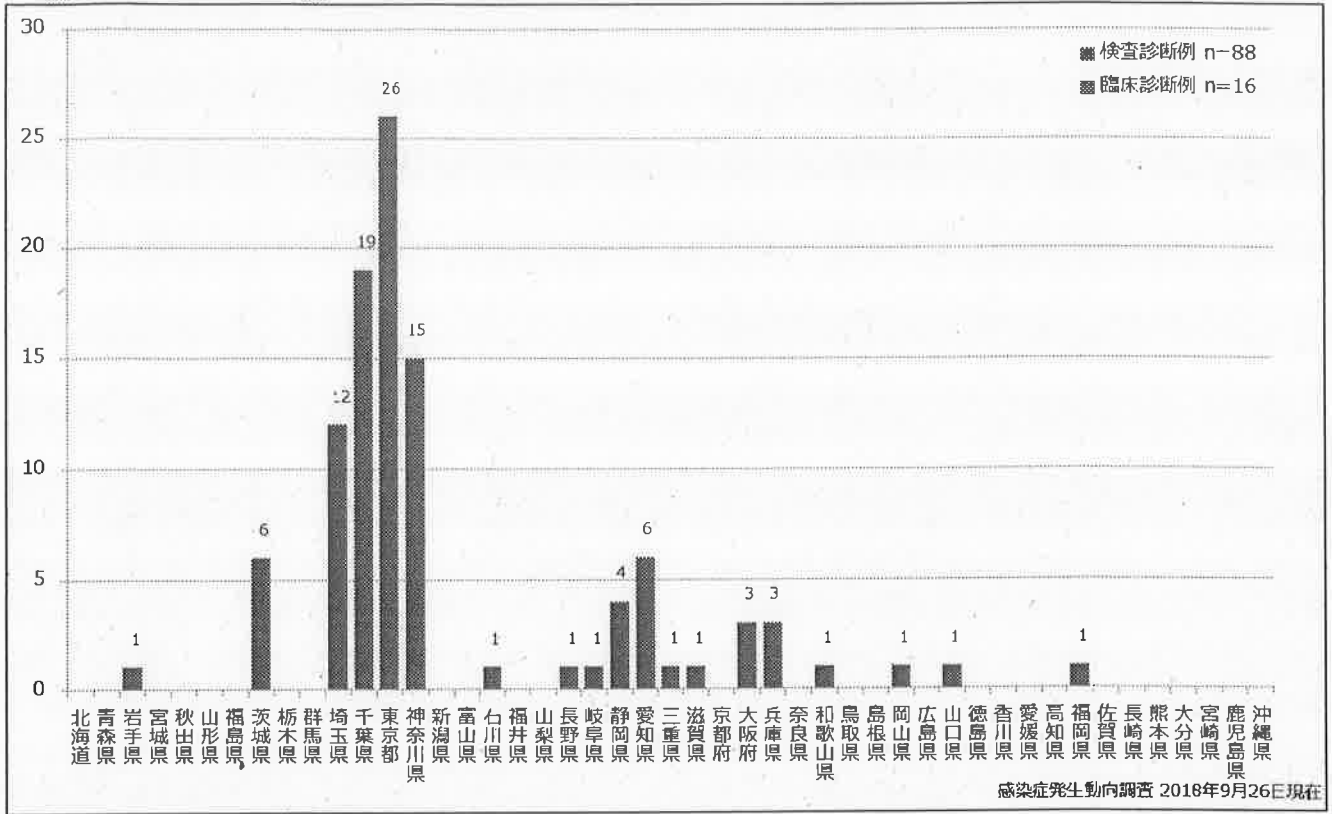
Weekly rubella cases, week 1-38, 2018 (based on diagnosed week as of September 26, 2018)



3. 都道府県別病型別風しん報告数 2018年 第38週 (n=104)

Reported rubella cases by prefecture and methods of diagnosis in week 38, 2018 (as of September 26, 2018)

■ Clinically diagnosed ■ Laboratory diagnosed



4. 都道府県別病型別風しん累積報告数 2018年 第1~38週 (n=770)

Cumulative rubella cases by prefecture and methods of diagnosis, week 1-38, 2018 (as of September 26, 2018)

■ Clinically diagnosed ■ Laboratory diagnosed

